

オートリゾートネットワーク構想における情報システムの研究

●効果的なホームページの制作とは

A Study of an Information System : the Auto Resort Network
: How to create more effective web site

山本 弥奈子

Minako YAMAMOTO

梅村 匡史

Masashi UMEMURA



SAPPORO INTERNATIONAL UNIVERSITY

札幌国際大学北海道環境文化研究センター

HOKKAIDO RESEARCH CENTER OF ENVIRONMENT AND CULTURE

オートリゾートネットワーク構想における 情報システムの研究 ～効果的なホームページの制作とは～

A Study of an Information System: the Auto Resort Network
- How to create more effective web site -

山本 弥奈子
Minako YAMAMOTO

梅村 匡史
Masashi UMEMURA

<要約>

インターネットはここ数年で急速に普及し、世界中の多くの情報を瞬時に発信し、入手することが可能となった。

(社)北海道オートリゾートネットワーク協会では、1988年から提唱されているオートリゾートネットワーク構想を効果的に推進するため、1998年8月7日に公式ホームページを開設し、オートキャンプ場やキャンプ場周辺の情報を発信している。今後、さらに信頼できる情報を利用者へ発信し続けるためには、協会自身でホームページの情報更新を行うことが必要である。

本研究では、小規模な協会でホームページを運用する際の問題点とその効果を実証的に検討する。

<目次>

1. 研究の目的
2. 研究の方法
3. 研究内容
 - (1)オートキャンプ場の利用者の必要としている情報とその入手方法
 - (2)(社)北海道オートリゾートネットワーク協会ホームページの概要
 - (3)ホームページの作成
4. 研究からの知見
 - (1)ホームページを作成するにあたって
 - (2)協会に求められる役割
5. 今後の課題

1. 研究の目的

この研究は、1988年に北海道開発庁から提唱された「オートリゾートネットワーク構想」(注1)に基づくさまざまな情報を、インターネットを通じてより効果的に推進していくための方法を研究するために行った。

「オートリゾート」とは、自動車利用を意味する「オート」と、行楽や保養のために行くということの意味する「リゾート」が組み合わされた言葉で、オートキャンプ場を宿泊拠点とし、周辺の自然や観光施設・人々のふれあいを持つことのできる地域全体のことを意味する。(社)北海道オートリゾートネットワーク協会では、この構想をより身近なものにするためにオートキャンプ場の管理運営水準の向上や各オートキャンプ場の周辺地域との連携を深め、信頼できまとまった情報をより多くの人々に提供するための活動を行っている(注2)。

この構想を推進する上で、ここ数年急速に普及しているインターネットは、それぞれの地域の特性を適切にまとめて、情報として提供する上で大変重要な媒体である。当協会では平成10年8月7日に公式ホームページを開設し(注3)、オートキャンプ場やその周辺の自然・アクティビティに関する情報を発信している。しかし、それらの情報を頻繁に更新したり、これまで蓄積された情報を活用するためには、協会内で常にホームページのメンテナンスを行うことが必要である。

そこで本研究では、当協会に代表されるような比較的小規模な協会で、インターネット、特にホームページの運用等を協会全体の活動の中に位置付け遂行する際の問題点、及びその効果を実証的に検討することを目的とする。

2. 研究の方法

本研究は、社団法人北海道オートリゾートネットワーク協会山本弥奈子と札幌国際大学観光学部梅村匡史の2名で平成11年4月から7月まで共同にて行った。

当初は週1回梅村研究室にてホームページの基本的な作成方法を学び、それを当協会のホームページ作成に応用するための手法と簡単なメンテナンス方法を研究した(図1参照)。

また、それと平行して平成11年度新規加盟オートキャンプ場のホームページの作成に着手した。その際市販のホームページ作成テキストやソフトウェアを使用して、効果的なホームページの作り方と運用、メンテナンスの方法を検討し、作成した。

(図1) 留学研究員コース受講のながれ

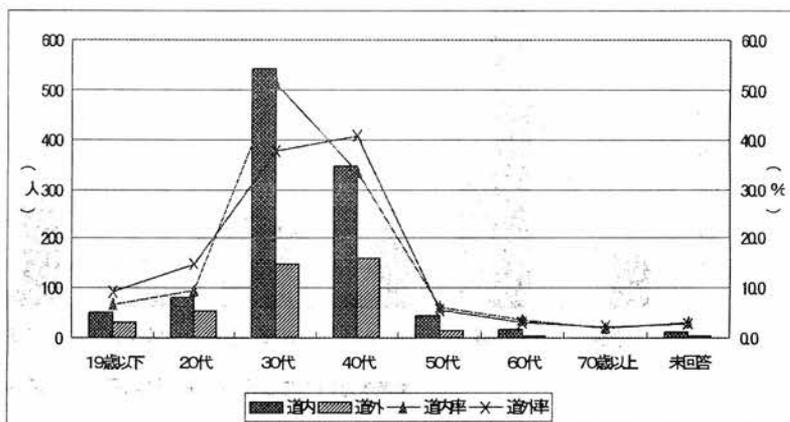
- 4月第3週 ガイダンス
- 5月第1週 ワードで自分のホームページを作成(練習)
- 第2週 自分の写真を取り込む・背景に色をつける(練習)
- 第3週 ワードアートを使って彩りをつける(練習)
- 6月第1週 ホームページ制作に関する現地調査(更別村)
- 第2週 予約情報ページの作成
- 第3週 予約情報ページの完成・確認
- 第4週 オートキャンプ場紹介ページで使うイラストの作成
- 7月第1週 オートキャンプ場紹介ページの作成
- 第2週 オートキャンプ場紹介ページ写真・イラストのレイアウト
- 第3週 新規加盟オートキャンプ場ページの完成
- 第4週 サーバへのアップ・運用

3. 研究内容

(1) オートキャンプ場の利用者の必要としている情報とその入手方法

「平成10年度オートリゾートネットワーク情報化検討業務」によると(注4)、オートキャンプ場を利用する年代は30代が最も多く、職業別では会社員が約半数を占めている。また、オートキャンプ場の利用目的は「家族だんらん」「キャンプを楽しむ」が主流であるが、道外利用者は道内利用者に対して「宿泊施設」として利用する割合が高い(図2～4参照)。

図2 オートキャンプ場利用者年齢層



オートキャンプ場情報の入手方法は、「市販のガイドブック」が多く、道内在住者は次いで「口コミ」で

図3 回答者の職業

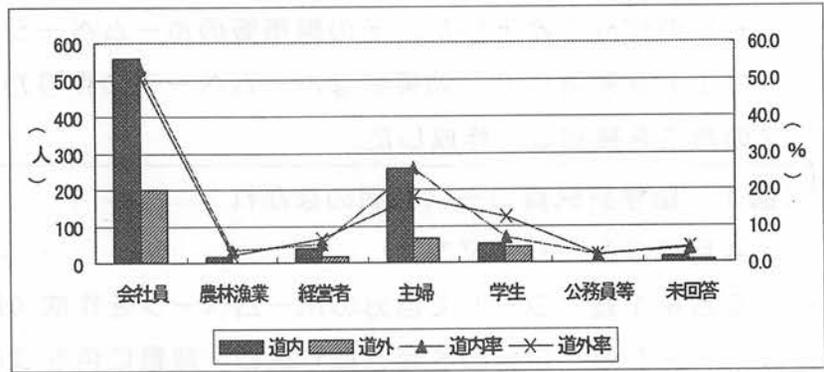
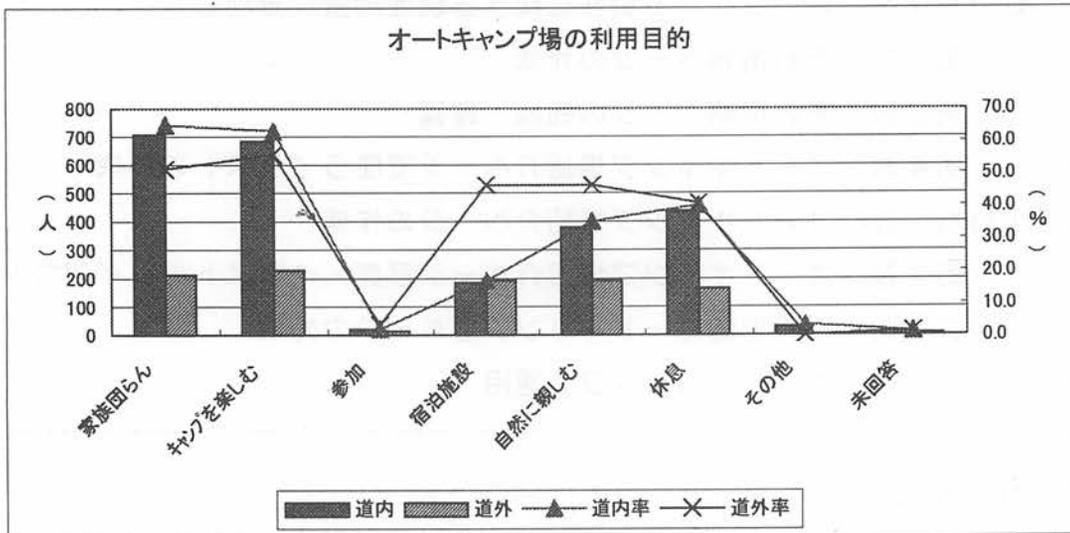
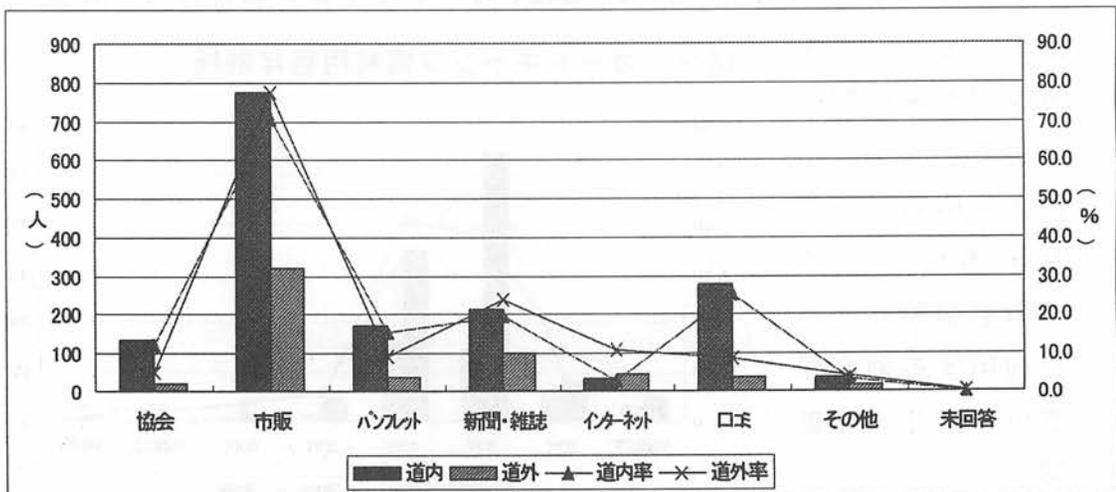


図4 オートキャンプ場の利用目的



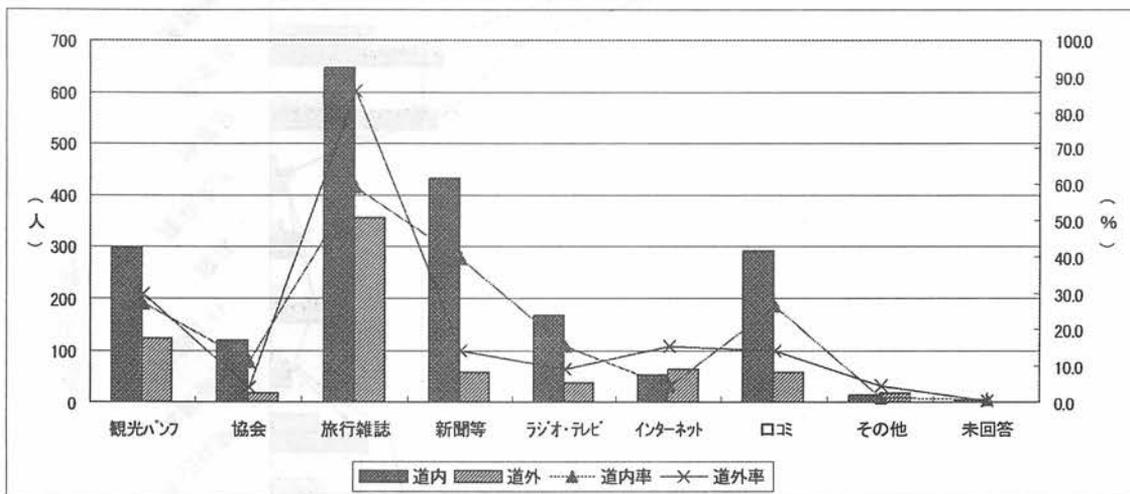
あるが、道外在住者は「新聞・雑誌等の情報誌」や「インターネット」から入手する割合が高い。

図5 オートキャンプ場情報の入手方法



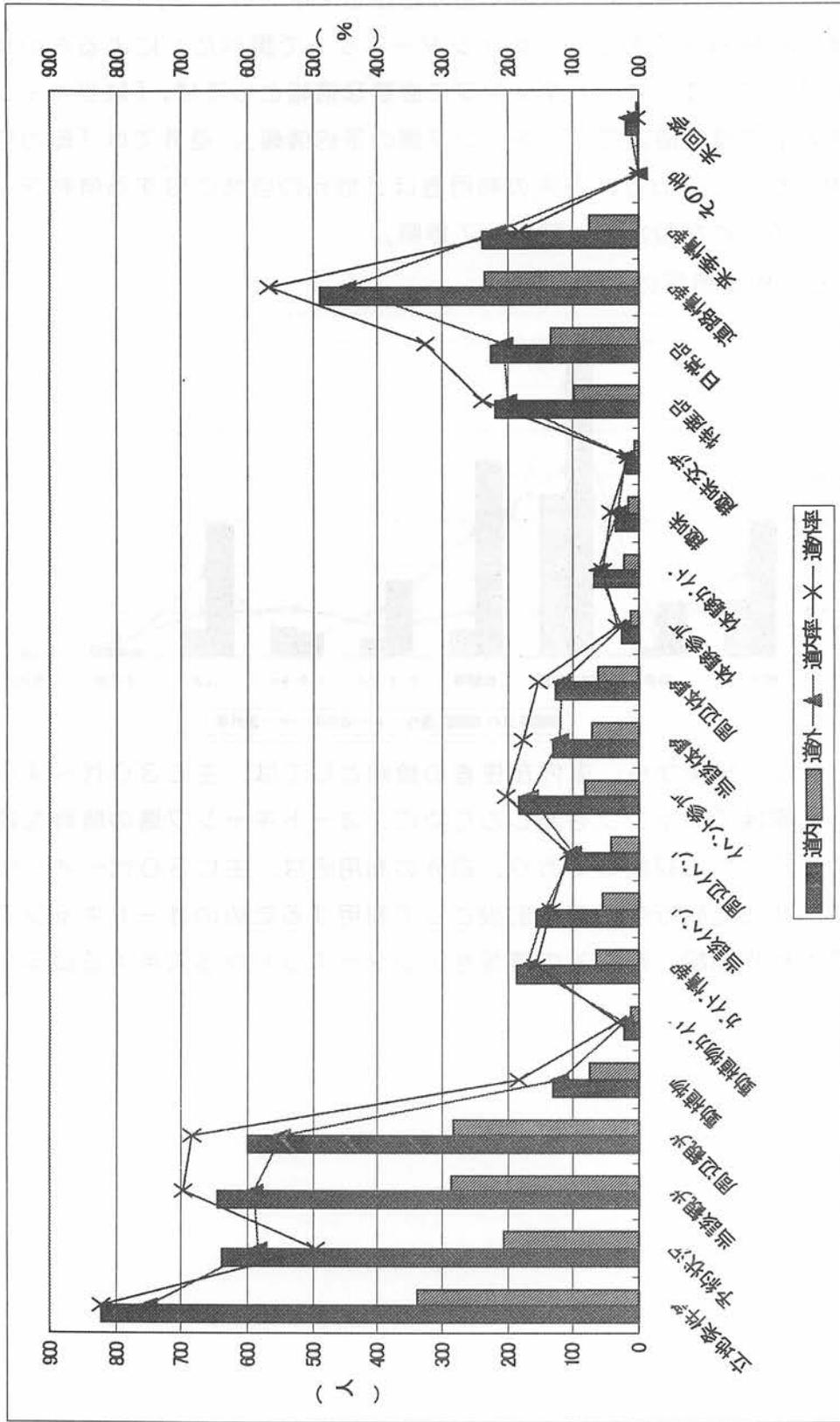
また、観光情報の入手方法は、道内外ともに「あらかじめ旅行雑誌で調べた」が最も多いが、次いで道内在住者では「口コミ」によるものが多く、道外在住者は「あらかじめインターネットで調べた」によるものが多いのが特徴である。オートキャンプに必要な情報としては、「該当キャンプ場の情報」に続き道内では「キャンプ場の予約情報」、道外では「町の自然や景観」となっており、道外の利用者ほど地元の自然に対する情報を必要としていることがわかる（図5～7参照）。

図6 観光情報の入手方法



この結果から、道内在住者の傾向としては、主に30代～40代を中心に家族でキャンプを楽しむために、オートキャンプ場の情報を雑誌や口コミなどから収集しており、道外の利用者は、主に30代～40代を中心に、北海道旅行中に宿泊施設として利用するためのオートキャンプ場や周辺の観光施設・自然等の情報をインターネットから入手する傾向があることがわかる。

図7 オートキャンプに必要な情報



(2) (社)北海道オートリゾートネットワーク協会ホームページの概要

(社)北海道オートリゾートネットワーク協会のホームページは1998年に開設以来、オートキャンプ場周辺や道内各地域の自然やアクティビティに関する情報を発信している。内容は、協会に加盟しているオートキャンプ場を紹介するページと、各地元で見ることのできる景色や特産品を使ったアウトドアクッキングなど、オートキャンプをより楽しむための情報を掲載したページとに大きく分類される(図8参照)。

図8 (社)北海道オートリゾートネットワーク協会ホームページ

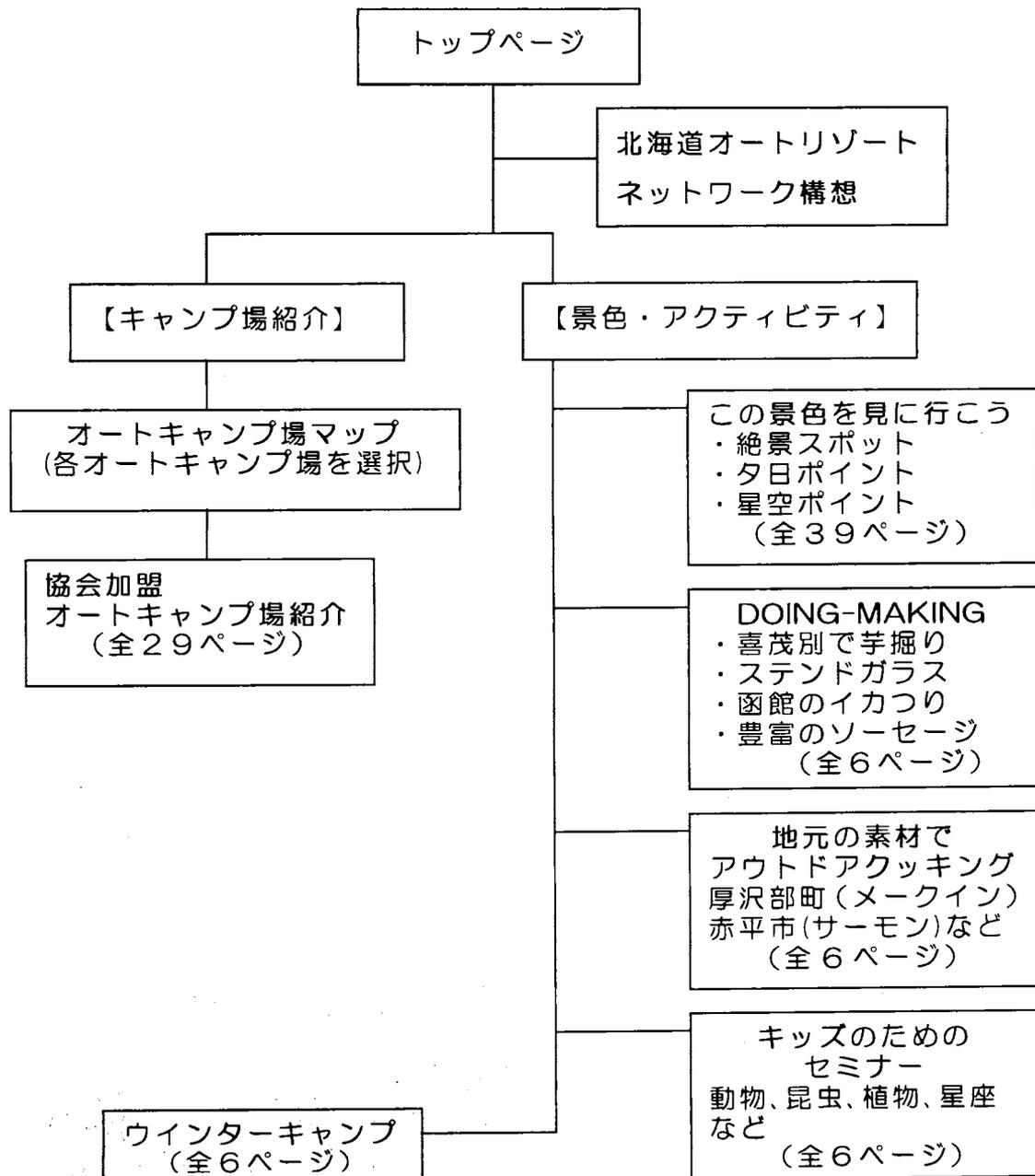
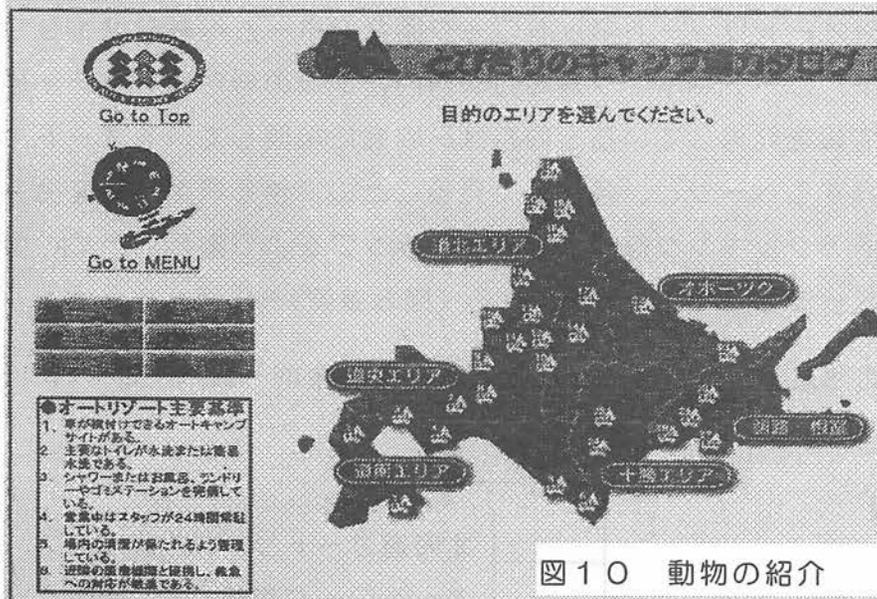


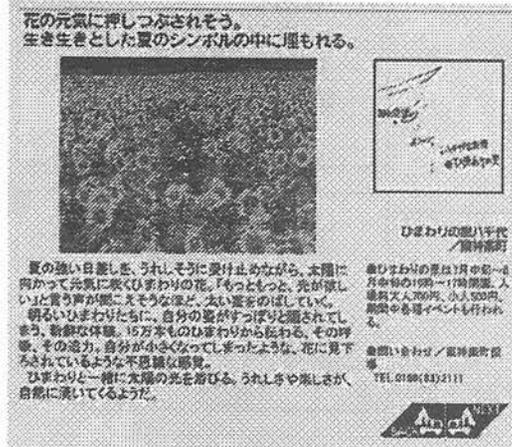
図9 オートキャンプ場の選択



オートキャンプ場の紹介ページでは、全道地図から見たい地域を選択し、次にオートキャンプ場を選ぶようになっている(図9参照)。また、景観や

アクティビティの紹介ページでは、全道各地の絶景ポイントや地元の素材を活かしたアウトドア

図11 景色スポット



クッキング、子供が自然に関心をもって楽しめるような動物・昆虫のページ(キッズのためのセミナー)、さらにウィンターキャンプの紹介など、オートキャンプを盛り上げられるような分野を掲載している(図10~13参照)。

しかし、当協会が平成6年度より

図10 動物の紹介

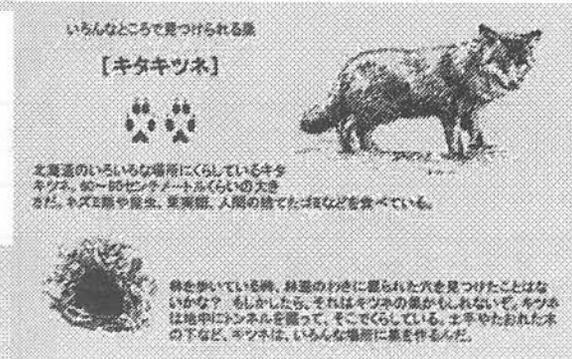


図12 冬のあそび



図13 アウトドアクッキング

別名ニジトロ。加熱して口にすると、甘い黄色の身がほろほろとくずれる。

石狩川の支流・室蘭川沿いに発達した赤平市。北東には豊富な地下水を抱えるイルムケツプ山がそびえる。緑豊かな街だ。

かつては石炭が赤平に繁栄をもたらしたが、エネルギー革命の波及により閉山。その後、内水農業基地として活路を開いた。おしよこまなどを産する「赤平フィッシュセンター」である。「赤平サーモン」、別名「ドナルドソン」。アメリカの水産学者ドナルドソンが、原種のニジマスから頭と尾端の小さなものを選抜育種し、一系統としたものだ。二年半から三年程度で15キロ程度に成長し、赤平フィッシュセンターでは年間4万〜5万匹程度出荷されている。

木酢液と活性炭を使用して育成した赤平サーモンは、魚肉にくさみやくせがなく、鮮やかな紅色、とろけるような舌触りと甘味から「ニジトロ」という別名を持つようになった。高級魚としてホテルや料亭に卸され、刺身・マリネ・ステーキとして調理される。地元の寿司屋で出している「ニジトロ寿司」も好評だ。

キャンプ場「エルム高原家族旅行村」の施設管理をしている長谷川さんは、アウトドア講習会やイベントで、赤平サーモンやおしよこまを使った調理を指導している。野菜を切る手つきも実に軽やかだ。

「焼きたてのパター焼きも手軽でおいしいけど、ニジトロのホイル焼き、おしよこまの炭揚げもまた特別ですよ。旨味が逃げないですからね」。

赤平サーモンは切り身にしたものに塩胡椒し、玉ねぎなどの野菜やレモンと一緒にホイルに包む。網かフライパンの上で加熱するとできあがりだ。口にすると黄色の身がほろほろとくずれ、塩気の中にほのかな甘味が感じられる。

おしよこまは炭揚げに、ケチャップで味をつけた野菜炒めに水溶き片栗粉でとろみをつけたものをかける。「おしよこまの炭揚げあんかけ」だ。アツアツを頬からまるごとかじり、あんが油のしつこさを中和して、いくつでも食べられるすっきりとした味に仕上がっている。

「山産の鮮やかな場所の、きれいな水で育った魚。育成には化学薬品を一切使っていない。自然の中で食べるには最高ですよ」。漬物で育った魚は、自然の奥深さを感じさせる上品な味わいだ。




赤平市内の各施設で予約。もしくは赤平フィッシュセンターで直接購入できる。赤平サーモンニジトロ1キロ1500円〜、1尾ずつ販売。おしよこま(1尾250円)のほか、サラダ、和え物などに最適なニジトロサーモン中切水産(1尾200円)もある。[株]赤平フィッシュセンターAF/赤平市曙町996番地 電話0126(42)0808 3時30分〜18時30分 日休休

資料提供/長谷川 川重
エルム高原家族旅行村施設管理事務所勤務。アウトドア料理師以外にも、ペットボトルを使用したロケット、花紙など工夫も行う。

FAX 情報で提供している加盟オートキャンプ場予約情報(注5・図14参照)や、平成11年度から加盟した5ヶ所のオートキャンプ場の情報が発信されておらず、キャンパーが必要としている情報を十分に発信しているとは言いがたかった。当協会ではそれらを早急にインターネット上に掲載することが課題であった。

そこで、ホームページ作成では、

1. 協会加盟オートキャンプ場の予約状況の提供を開始する

2. 平成11年度加盟した5ヶ所のオートキャンプ場の紹介ページを作成する

の2点を最重要課題として作業を進めた。

(3) ホームページの作成

① オートキャンプ場予約情報

図14のとおり、当協会では週1回オートキャンプ場予約情報をFAXで提供している。これを同じ形式でインターネット上で表わすと横幅が画面に収まらず、また上下にも長くなって見づらくなるため、画面を2分割して、上方では道外の利用者もわかりやすいように地域別に選択できるようにした。

特に、予約情報はキャンパーのニーズが高い情報であることから、トッ

ブ場を予約する際や宿泊当日に現地の天気を確認する手段として、このように他のホームページとリンクして詳しい情報を同時に入手できることは、インターネットの最大の利点である。

図 15 インターネットでの予約情報提

The screenshot shows a website with a navigation menu at the top and a large table below. The table has multiple columns and rows, likely representing different campsites or reservation periods. The text is small and difficult to read, but the structure is a grid.

今後利用者にとってさらに有効な情報を発信するためには、それぞれの内容に関連したホームページへリンクを充実させて行く必要がある。また、多くの分散した情報に受信者が混乱しないよう、過不足のない情報発信を可能にすることが、当協会のホームページ作成にあたって重要な課題である。

②新規加盟オートキャンプ場

平成11年度に加盟した5ヶ所のオートキャンプ場(はこだてオートキャンプ場、いわないリゾートパークオートキャンプ場

図 16 オートキャンプ場紹介ページの内容 (既にホームページで紹介しているページ)

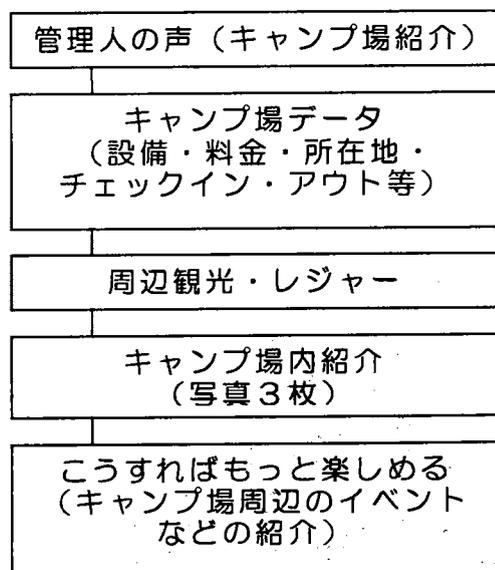


図 17 既加盟オートキャンプ場のページ



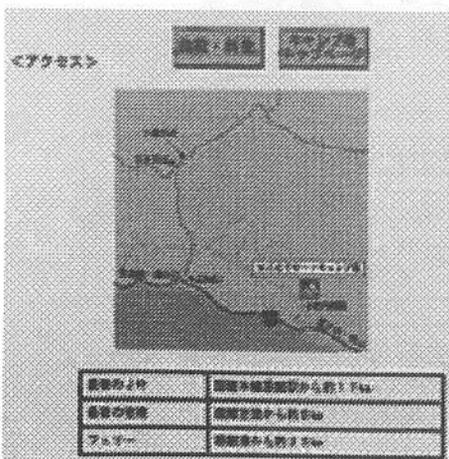
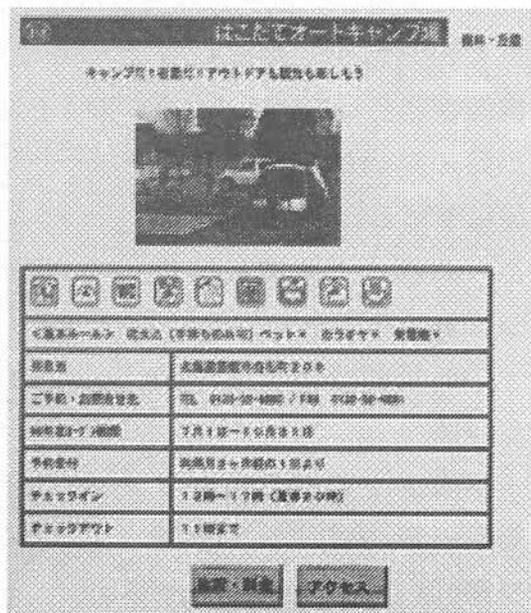
図 18 新規加盟オートキャンプ場紹介ページの内容

キャンプ場データ (所在地・チェックイン・アウト等) 写真 1 枚
キャンプ場内施設・料金
キャンプ場までのアクセス (周辺地図・最寄空港・JR ・港からの距離)

マリンビュー、ひがしかぐら森林公園オートキャンプ場フローレ、かなやま湖オートキャンプ場、清里オートキャンプ場)については、既に当協会ホームページで紹介しているものと内容を変更した。

情報量が多いものをホームページとして作成する際には、要点を簡潔にまとめて発信することが、受信側にとっても分かりやすく、重要な要素である。既に加盟している29ヶ所のオートキャンプ場を紹介しているページは、現在1キャンプ場につき5ページにわたっているが(図 20 新規加盟オートキャンプ場のページ(アクセス))

図 19 新規加盟オートキャンプ場のページ(データ)



16・17 参照)、今回は1キャンプ場につき3ページにして情報量を調節した(図 1

8～21参照)。

従来のページに比べ、キャンプ場周辺の情報やアクティビティの情報、そしてキャンプ場内の写真を減らし、現地までの手段として当該キャンプ場までの広域マップと空港・JRなど公共交通機関を使用する際の距離の目安、さらに場内施設の有無がわかるようにイラストを新たに加えた。キャンプ場内の写真数は従来の4分の1になったが、インターネットにおいては、現地の雰囲気わかる写真1枚でもその様子を十分伝えることは可能である。

オートキャンプの分野では、現在既に多数のホームページが開設されており、同一キャンプ場が多くのホームページで紹介されていたり(注6)、キャンプ場自身が自らのホームページ(注7)を開設している場合も珍しくはない。したがって、当協会のホームページ作りは各キャンプ場を大量の写真等を用いて紹介するより、基本的な情報に絞って常に正確で新しい内容のものを掲載することが重要であると考え。より詳しい情報を入手できるページがある場合は当協会のホームページから信頼のできる関連箇所へリンクするようにした方が、受信者に詳細な情報を提供することができるであろう。

また、オートキャンプ場の利用者が旅行計画を立案する上で必要となる確定したイベントの日付、アトラクションの内容、予約状況などの動態情報については当協会のホームページに登載することで、利用者のアクセス上の利便性を高め、イベントやアクティビティ実施主体の内容、イベントの年間計画などの静態情報については、それぞれの団体や事業主体のホームページにリンクすることが望ましい。

オートリゾートネットワーク構想を推進する視点から、単にオートキャンプ場の情報のみならず、その周辺で行われるイベントやアウトドアアクティビティについての情報を積極的に提供することが重要であり、当協会重点

図21 新規加盟オートキャンプ場のページ(施設・料金)

The screenshot shows a website interface with a search bar at the top. Below it is a table listing various camping sites with their respective details. The table has columns for site name, site type, location, and fees. Below the table are sections for 'Campsite facilities' and 'Camping fees', each with a list of items and their associated costs. At the bottom, there are sections for 'Site information' and 'Reservation'.

名称	サイト種	所在地(広域)	特徴
キャンプ場	オートキャンプ場	東京都 1区-1区 1000円	設備: 上水道・下水道 施設: (1) 1000円
キャンプ場	オートキャンプ場	東京都 1区-1区 1000円	設備: 上水道・下水道 施設: (1) 1000円
キャンプ場	オートキャンプ場	東京都 1区-1区 1000円	設備: 上水道・下水道 施設: (1) 1000円
キャンプ場	オートキャンプ場	東京都 1区-1区 1000円	設備: 上水道・下水道 施設: (1) 1000円
キャンプ場	オートキャンプ場	東京都 1区-1区 1000円	設備: 上水道・下水道 施設: (1) 1000円
キャンプ場	オートキャンプ場	東京都 1区-1区 1000円	設備: 上水道・下水道 施設: (1) 1000円

を置くべき分野であるので、ホームページ全体の構成やこれらの情報の円滑な入手や提供に関するシステムについて再構築する必要がある。

4. 研究からの知見

(1) ホームページを作成するにあたって

前述したように、ホームページの作成で最も重要なのは、受ける側が必要とする情報を適切に提供することである。常に利用者のニーズを把握し、ホームページに反映させる必要がある。また、そのニーズは多様であることから大量の情報を提供することとなる。したがって、それらの要点をおさえて簡潔かつ正確に、そして迅速に伝えることが大切である。このことを踏まえて、ホームページ作成を進める上で問題となる点がいくつかある。

① 各ページの作成に関して

サイトを開くのに時間がかかるのはそこへアクセスした人にとって親近なホームページとは言い難い。たとえ情報が正確であったとしても、ひとつのページを開く度に多くの時間を要するのは、容易に情報を入手できるというインターネットの利点を失うことになる。特に写真やイラストはたくさんの容量を必要とするため、アクセスに時間を要する原因となる。そこで今回のオートキャンプ場紹介ページでは、写真やイラストなどの解像度を下げて容量をできるだけ軽くし、ページが早く開くようにした。写真などの量も最も伝えたいものに限定し、数も極力少なくするようにした。

② 各ページ間の構成について

ホームページを実際に作成する前に、ページの構想をきちんとまとめておくことが重要である。どこに何を載せ、どれくらいの量にするかを決めてから実際に作りはじめなければ、途中で情報が混乱し、結果的にアクセスしてきた人にもこちらから発信する情報が正確に効率的に伝わらないことになる。しかしながら、事前にしっかり構想を練っても、作成の過程でもっと良いアイデアが浮かぶこともあるので、常に作成したものを見返し訂正しながら作って行くことは、大切な過程である。

③ ページの更新について

さらにホームページを公開したら WWW インタラクティブであるという利点を生かし、いろいろな人からホームページの内容に関する感想や意見を聞けるよう E メールを受け付けるなどして、常に内容の向上や更新に努めることが大切である。

(2) 協会に求められる役割

① 情報をオーサライズする。

インターネット上の情報は玉石混交であり、利用者にとって正確な情報であるか否かの判断が難しい。したがって協会を通して情報を相互リンクさせることにより、間接的に情報に関するオーサライズを与える。したがって情報提供に関して指導助言を行うことになる。

② 情報発信の手助け

情報の発信にあたって外部委託している場合、協会が窓口または直接引受業務の委託を受ける。情報の更新や問合せの回答を行える要員の育成にあたり、一部代行を引き受ける。

③ ネットワーク環境を整える

すでに行政主体で多くの通信網が整備されてきている。これらの活用を推進し、関係機関の調整を行い、現場でのネットワーク接続に関する費用の負担を軽減する。特にオートキャンプ場の整備については、町外の人が多く利用する施設であることから、町民の理解が得られにくい傾向があるので、積極的に関与し、これらのネットワーク化を進める必要がある。

④ サイトや各種イベントの予約

観光者が実際に行動を起こすためには、情報を入手しそれらが実際に行えることを確認する必要がある。そのためには、予約という作業が不可欠である。現状ではインターネットで直接予約を受けるには、解決しなければならない多くの課題がある。しかし、将来的にはインターネットで予約を行うかたちになる。したがって、協力を得られる機関と試験的にインターネットや他の手段の双方を利用した予約のあり方を検討する必要がある。その際、道の駅やキャンプ場の端末あるいは要員の協力が重要であり、組織化する必要がある。

⑤ グランドツーリズムの観光資源の開発

各地域には、地域特有の自然や環境を有し、文化が育まれている。人々はそれに基づき生活を営んでいる。グランドツーリズム(注8)はまさにこれらに立脚したものであるから、すべての地域での開発が可能である。多くの市町村では観光開発を行政の柱として掲げているが、箱物(ハード)に目が行き、ソフトが整備されず大きな成果をあげることができないでいる。多くのオートキャンパーはグランドツーリズム系のアクティビティを望んでいる。したがって、オートキャンプ場を有する自治体や周辺自治体

にグランドツーリズムの観光資源の開発を促し、プロモートする必要がある。

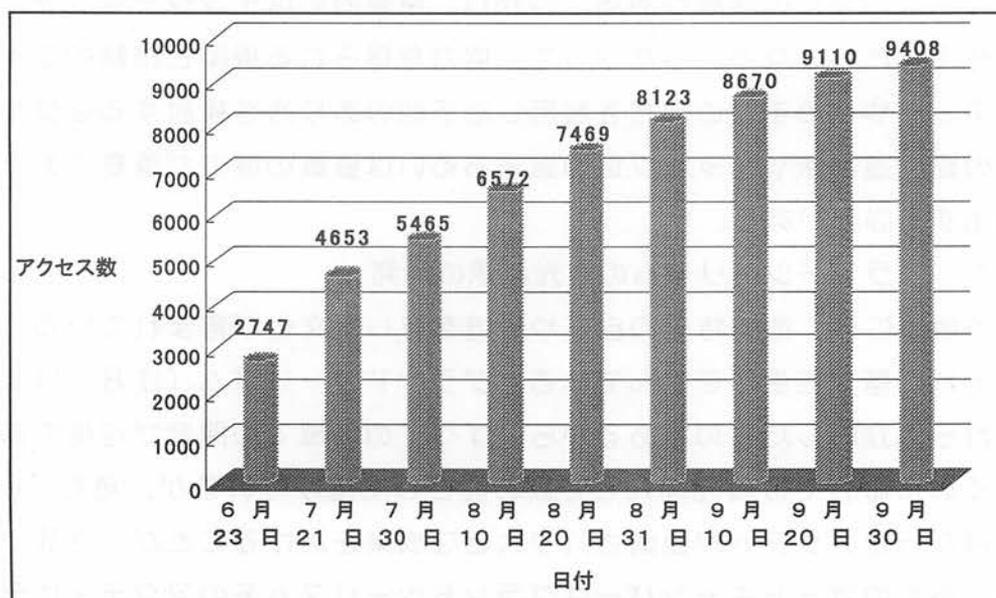
⑥ 関係団体との協力

③の項でも指摘したが、地域の振興という観点から、国や道の関係セクションとの協力は不可避である。また、日本オートキャンプ協会、アウトドア協会、四国オートリゾートネットワーク協会など道外の関係団体と協力し、これらを通して、道外のキャンパーに向かって情報を発信し便宜を図ることを推進する必要がある。

5. 今後の課題

インターネットの普及によって大量の情報を瞬時に世界中に発信し、入手することが可能になった現在では、一般家庭においても普及率が上昇している（注9）。平成6年度からFAXサービスで提供しているオートキャンプ場予約情報を、当協会ホームページでも平成11年6月23日より開始したところ、アクセス数は飛躍的に増加した（図22参照）。このように、キャンパーのニーズに応えることには、多くのアクセスを望むことができ、情報の提供の手段として有効に働くことを実証できた。今後、オートキャンプ場の予約状況を各家庭のインターネットで確認し、予約する機会が増加して行くと考えられる。

図22 (社)北海道オートリゾートネットワーク協会
ホームページアクセス数の推移



その状況に対応するため、当協会のインターネットでも予約を直接受付

けるシステムを導入する必要がある。現在加盟している34ヶ所のオートキャンプ場はそれぞれの予約受付方法を採用しているが、終日予約を受け付けるなど一定のルールを作り、利用者にとってさらに利用しやすい環境を整えることが重要であり、インターネット利用のさらなる活用に結びつくこととなる。

また、予約情報と並んで地域情報やアウトドアアクティビティの情報発信にも重点を置いて行く必要がある。その範囲はイベント、自然観察や収穫体験、カヌーや乗馬など広範囲に及び、それらの新しい情報を協会独自で常に把握することは易しいものではない。しかしながら、これらの情報はオートキャンプを行う者にとり重要であると考えられる。また、オートキャンプ場自体も地域の特徴に応じたアクティビティを提供したり、開発することにより、他のキャンプ場との差別化をはかり、新たなマーケットを開拓することができる。したがって、各市町村等の団体と日頃から様々な情報交換をしたり、新たなアクティビティ等の開発で協力しあえる体制を確立することが今後ますます不可欠となる。その関係を土台に、より良いホームページづくりを行い、多くの人々にオートキャンプ場を利用し、アクティビティに参加してもらうなど、人々のふれあいを推進して行くことが重要である。

本研究にあたり、札幌国際大学観光学部助教授梅村匡史先生と共同研究、ならびにご指導いただく機会を与えてくださった皆様に感謝いたします。

(山本)

注釈

- (注 1) 現在では全国的に広がり、四国では四国オートリゾートネットワーク協会も活動している。
- (注 2) (社) 北海道オートリゾートネットワーク協会では、毎年オートリゾート管理運営担当者会議（ブロック別及び全体）とオートリゾート研修会を主催し、ネットワーク事業やオートキャンプ場の運営問題について検討したり、利用者へのホスピタリティーや救急法などについての研修を行っている。
- (注 3) (社) 北海道オートリゾートネットワーク協会
URL <http://www.auto-net.or.jp>
容量 25MB
平成11年7月から10月までの月平均アクセス数 1860件
- (注 4) 当協会が平成10年度に行ったアンケート調査による。
(目的) オートキャンプ場利用者にとって必要な情報について調査分析し、そのニーズを把握する。
(調査方法) 北海道オートリゾートネットワークに加盟する29ヶ所のキャンプ場に調査票を配布し、キャンパーにチェックインの際に手渡し、チェックアウト時または後日郵送により回収する。
(調査時期) 平成10年8月
(有効回収数) 計3731票
1,534票(1回目)、1,538票(2回目)、659票(3回目)
- (注 5) 予約情報は毎年4月中旬～10月末まで毎週水曜日、道新 FAX サービス上で提供している。月平均アクセス数は2485件。
- (注 6) 日本オートキャンプ協会 URL <http://www.autocamp.or.jp>
ライズ・ネイチャートレイルワンダーランド
URL <http://www.gimmig.co.jp/RISE/camp.html>
スーパーステージ開発協議会
URL <http://www.linx.co.jp/Arcss/camp>
- (注 7) オートリゾート滝野 URL <http://www.tph.co.jp/~takino>
歌オオートキャンプ場ル・ピック
URL <http://www.host.or.jp/user/bunacent/lpic.htm>
道立オホーツク公園てんとらんど
URL <http://www.ohotuku26.co.jp/organization/tentland/1page.htm>
滝川・丸加高原オートキャンプ場(丸加高原健康の郷)
URL <http://www.ingweb.co.jp/maruka/index.html>
- (注 8) 日本電子工業振興協会の調査によると、1998年度の国内パソコン市場は、対前年度比10%増の753万8000台で、そのうち家庭向けは35%を占めたとみられる。前年度の26%程度に比べ普及率は大きく伸びた。(日本電子工業振興協会 URL <http://www.jeida.or.jp/toukei/pasocon/h10/year/index.html>)
- (注 9) 「グランドツーリズム」は、北海道の雄大な自然の、奥に潜む魅力を発見する旅をいい、「グランド」は Grand(雄大な)と Ground(大地)をあわせた造語(平成7年度北海道開発局「エコツーリズムによる地域活性化推進方策調査報告書」による)。

参考文献

- 1.梅村匡史、森雅人、越塚宗孝、宮武清志、近藤淳子、有山忠男 『インターネット利用による観光情報提供の試みー北海道オートリゾートネットワークのケースを中心にー』 日本観光学会誌第29号、1996年
- 2.(社)北海道オートリゾートネットワーク協会編 『平成10年度オートリゾートネットワーク情報化検討業務』 (社)北海道オートリゾートネットワーク協会、1999年
- 3.梅村匡史 『高度情報通信社会とオフィス能力』札幌国際大学北海道環境文化研究センター REC TECHNICAL REPORT No.0032,1999年
- 4.(社)北海道オートリゾートネットワーク協会企画 『OUTDOOR COMMUNICATION'98』 (株)イエローページ、1998年
- 5.(社)北海道オートリゾートネットワーク協会企画 『OUTDOOR COMMUNICATION'99』 (株)イエローページ、1999年
- 6.(財)余暇開発センター 『レジャー白書 '97』(財)余暇開発センター、1997年
- 7.(財)余暇開発センター 『レジャー白書 '98』(財)余暇開発センター、1998年
- 8.(社)日本オートキャンプ協会 『オートキャンプ白書 '97』(社)日本オートキャンプ協会、1997年
- 9.(社)日本オートキャンプ協会 『オートキャンプ白書 '98』(社)日本オートキャンプ協会、1998年

A Study of an Information System: the Auto Resort Network
- How to create more effective web site -

Minako YAMAMOTO

Masashi UMEMURA

The internet has been spreading rapidly in the last few years. It is possible to get and dispatch much information instantaneously through out the world.

Hokkaido Auto Resort Network Association has been an official web site since August 7,1998. It has been dispatching much information about auto campsites and surroundings in Hokkaido in order to promote effectively the new concept of the Auto Resort Network, originally proposed in 1988.

It is now necessary for us to keep updating the web-site by ourselves to dispatch more reliable information for users.

In this study, we will examine the problems and the effects of the use of the web-site on a small scale association.

Minako YAMAMOTO and Masashi UMEMURA, A Study of an Information System:the Auto Resort Network : How to create more effective web site / REC TECHNICAL REPORT, No.0034, Nov.1999, Hokkaido Research Center of Environment and Culture,SIU (Sapporo international University).

[執筆者紹介]

○ 山本 弥奈子 (やまもと みなこ)

平成11年度春期札幌国際大学北海道環境文化研究センター研究自由人 (留学研究員)
社団法人北海道オートリゾートネットワーク協会

○ 梅村 匡史 (うめむら まさし)

札幌国際大学観光学部助教授 観光情報

1999年11月30日 刊行

編 集：北海道環境文化研究センター

発 行：学校法人 札幌国際大学 和野内 崇弘

〒004-8602 札幌市清田区清田 4-1-4-1 TEL (011) 881-8844 FAX (011) 885-3370
